



70周年記念報を振り返って

1年に渡り発行してきたこの「70周年記念報」も、ついに最終号を迎えました。
本誌最後は、木下 貴史社長から皆さんへの熱い想いをお伝えします。

Vol.12
3月号

私が社長に就任したのは、ガンシンに入社して3年経った30歳のときでした。先代から指名を受けたときは「私なんかで良いのだろうか…」という気持ちでした。しかし、そんなとき、社会人になったばかりの頃に上司から言われたある言葉を思い出します。

『社会人1年目は仕事を覚える年。2年目は仕事をする年。そして、3年目はようやく自分から仕事を作っていく年だ。』 ちょうど入社3年目、当時はまだ業界の勢いが弱い中での社長就任でした。この言葉のおかげで「厳しい状況下でも私なりにどこまでできるか、がむしゃらに進もう！」と決意できました。

その後は、お客様や地元の方々に可愛がっていただき、様々なアドバイスを受けて今日に至ります。人に指示をして行動に移すことがいかに難しいことかを学んだ日々でした。当時はそれが正しいことだと思い、理不尽なことを言ったこともあったと思います。そんな中でも、社員の皆さんは私に付いてきてくださり、いつも助けてくれました。受注競争の激化や、その直後の景気不振の時期も、周囲の方々の支えや会社の信頼を元に、皆さんがそれぞれの持ち場・立場で、全力で問題に立ち向かってくれたからこそ乗り越えることができました。

そして、創立70周年を迎え、内勤で現場のことを知る機会の少ない社員や、さらには社員のご家族に、どんな仕事をしているか、どんな人が働いているか、を伝えられる機会があればとの思いから、記念報の発行を始めました。さらに、各事業所内でコミュニケーションを取りやすい環境を作る契機にして欲しいという思いもありました。1泊2日の宇佐神宮への安全祈願については、若い社員から「また行きたい」という声が届いています。今後は、食事会や社内旅行など、そのような社員の声が聞けるコミュニケーションの場が大事になります。70周年を機に、これからも年数回、社内での情報発信や、さらには外部の方へ発信する機会も持っていかれたらと思っています。

今後は、業界内で存在感を示せるような強いブランド力を持つ会社にすることが目標です。さらに、従業員の皆さんが「この会社に入って良かった」と思える会社づくり、また、地域に愛され、お客様に選んでいただける会社づくりにも取り組んでいきます。

最後に、皆さんは会社の宝です。皆さんが安心して働ける職場環境を目指し、新しい取り組みにも積極的にチャレンジしていかなければなりません。皆さんと共に、次の80年、さらには100年を見据えた会社を作っていきたい。これが私の一番の想いです。

